

がんばる介護事業所

を募集します！

富山県では、要介護者の自立支援や生活の質の向上、雇用環境の改善に積極的に取り組む介護事業所等を表彰します。

あなたの事業所で工夫している取組みをアピールしてみませんか？

1 募集の対象



以下の2部門について、笑顔あふれるいきいき介護事業者を募集します！

自立支援部門

県内で以下のサービスを提供しており、かつ開設から2年以上経過している介護保険施設・事業所

- ・介護老人福祉施設（地域密着型を含む）
- ・介護老人保健施設 ・介護医療院
- ・介護療養型医療施設
- ・通所介護（地域密着型、療養通所介護を含む）
- ・認知症対応型通所介護 ・通所リハビリテーション
- ・訪問介護 ・訪問入浴介護 ・訪問看護
- ・訪問リハビリテーション ・夜間対応型訪問介護
- ・定期巡回・随時対応型訪問介護看護
- ・居宅介護支援
- ・特定施設入居者生活介護（地域密着型を含む）
- ・認知症対応型共同生活介護
- ・小規模多機能型居宅介護 ・看護小規模多機能型居宅介護
- ・福祉用具貸与・販売 ・居宅療養管理指導

【取組み例】

- 利用者の状態に合わせた個別訓練メニューの作成により、身体機能改善者が増加
- ケアプランに「聞き書きボランティア」などインフォーマルサービスを取り入れたところ、認知症の症状が改善 など

雇用環境部門

県内で高齢者福祉サービス又は障害(児)者福祉サービスを提供しており、かつ開設から5年以上経過している以下の要件を全て満たす法人・事業所

【要件】

- ①労働基準法等、法令に沿った就業規則の整備
- ②労働基準法など労働関係法令、その他法令について過去3年間無違反
- ③処遇改善加算Ⅰの届出

【取組み例】

- 新人職員の研修の実施指導担当者に対する独自の内部研修の実施
- 看護休暇・介護休暇の設定など育児、介護を両立できる取組みの実施
- 職員の腰痛対策を含む負担軽減のための介護口ポット等の導入
- ICTの活用による職員の負担軽減や業務省力化
- 職員表彰制度の導入 など

2 応募方法

(1) 募集期間

令和3年10月12日(火) ~ 10月29日(金) ※消印有効

(2) 応募方法

応募書類（県HPに掲載）を各部門の応募先に郵送又は持参してください
※提出書類は部門ごとに異なります（詳細は募集要項をご覧ください）

県HPのQRコード



お問合せ先

<自立支援部門>

富山県厚生部高齢福祉課 介護保険係
TEL: 076-444-3272 FAX: 076-444-3492
E-mail: akoreifukushi@pref.toyama.lg.jp

<雇用環境部門>

富山県厚生部厚生企画課 地域共生福祉係
TEL: 076-444-3197 FAX: 076-444-3491
E-mail: akoseikikaku@pref.toyama.lg.jp

3 表彰式

令和3年12月に富山県庁の庁舎内で表彰式を開催する予定です。
受賞事業所には、表彰状及び副賞（※3万円以内の介護関連用品）を授与します。
※事前に、各受賞者が希望する品をお伺いします。

4 昨年度の受賞者

要介護度維持改善部門

「要介護度維持改善部門」は令和3年度から「自立支援部門」に名称が変更となりました。

事業所名	受賞内容
老人保健施設 エルダーヴィラ氷見	他職種が連携した転倒・転落予防の一体的実施により事故件数が減少 厳しい雇用情勢により未経験の新人職員が増加する中、慣れない職員でも安全な介護を実現するため、看護・介護・リハビリ職など多職種が連携して、入所者全員のベッドまわりの環境や移乗の仕方など個人の自立度に応じて設定。 一目見て分かるようイラストにして掲示した結果、転倒・転落事故件数が減少した。

雇用環境部門

法人・事業所名	受賞内容
社会福祉法人 戸出福祉会	男性職員の育児休業取得率100%を実現 男性職員の育児休暇取得のために、社会保険労務士による制度説明、取得日数による収入面などのシミュレーション作成、他職員への説明の実施等に取り組んでいる。 男性職員の育児休業取得のハードルが下がり、取得者がいなかった状況から該当男性職員が希望する日数の育児休業の100%取得に繋げ、職場内での気軽な助け合いが実現できている。
社会福祉法人 宣長康久会	コロナ禍で介護ロボットやICT導入により職場環境改善の追加整備を含む感染拡大防止を図りながらサービスの継続、対応状況の情報提供等を実現 法人の生産性向上のために情報共有ソフトの更新などリモートワーク環境整備とともに、職員の新型コロナウイルス感染発生後、感染拡大防止で成果をあげた。 また、マスクや県内外事業所等への積極的な情報提供や、他施設との給食相互提供協力協定の締結などにも取り組んでいる。
特別養護老人ホーム 七美ことぶき苑	介護ロボット等の導入による接触点・接触機会が半減することを調査により明らかにし、利用者の不安解消と職員のストレス解消を実現 福祉用具と介護ロボット等を導入してきた効果について介助時の接触点や訪室などの接触機会の調査を行い、半減できていたという調査結果を活用し、コロナ禍での介助による感染リスクに対する利用者の不安解消と職員のストレス軽減に取り組んでいる。 また、接触箇所の特定が容易となったことを活かし、重点的な消毒の実施にも取り組んでいる。
社会福祉法人 梨雲福祉会	新型コロナウイルス感染の疑い発生時に、早急な対応体制の整備と実行を実現 職員の新型コロナウイルス感染の疑い発生に際して、結果判明まで、職員の出勤停止やゾーニングの対応、人員固定配置、職員の宿泊部屋等の準備、職員勉強会の開催など着実に法人内の体制整備・実行に取り組んだとともに、今後発生した場合への職員の安心感の醸成や、冷静で早急な対応づくりに繋げている。

5 受賞者の声

職員の意識が高まり、新たな取組みにもチャレンジするようになった。
地域のみなさんや若い学生にも事業所の取組みを知ってもらえた。